

第5部 地域特性を活かした産業創造のまちづくり  
～産業分野～



本市は都市近郊地域として、野菜や花き、近年は熱帯果樹などを中心とした農業を振興してきました。

今後も、農業生産の場である優良農地の保全や耕作放棄地の活用を図っていきます。また、魅力ある農業経営のため農業経営の向上と安定化、多様な農業担い手の育成・確保、安心・安全なとみぐすくブランドづくり、生産・流通・販売体制の強化などを推進します。

農村地域の活性化や生活環境の改善に向けては、都市と農村の交流、農村景観の保全と創出などによる農の多面的利用、生活基盤や施設の整備・改善などに努めます。

### ○耕作放棄地の解消

本市の農用地等の多くは「農業振興地域※1（1,329ha）」に位置しており、その中でも特に農用地等としての保全・利用の必要性の高い区域を「農用地区域※2（301ha）」に指定しています。また、平成21（2010）年における耕作面積は362haで、宅地化の進行に伴う「農地転用※3」や担い手不足などによる「耕作放棄地※4」化により減少していましたが、近年下げ止まりとなっています。農家数については、専業農家・兼業農家ともに大きく減少してきています。

農業振興に向けては、優良農地を保全・確保していくとともに、意欲のある担い手への農地の集約化や経営安定化を図っていく必要があります。

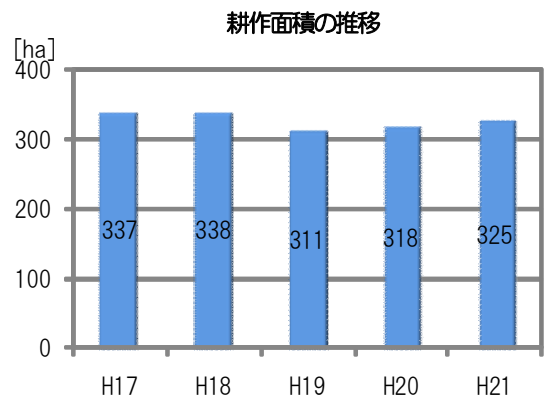
### ○特色ある農業生産

農業生産額は平成18（2006）年で24億6千万円と、近年は横ばい傾向にあります。農家数は減少しているため、経営規模が大きい農家が増加しているものと思われます。

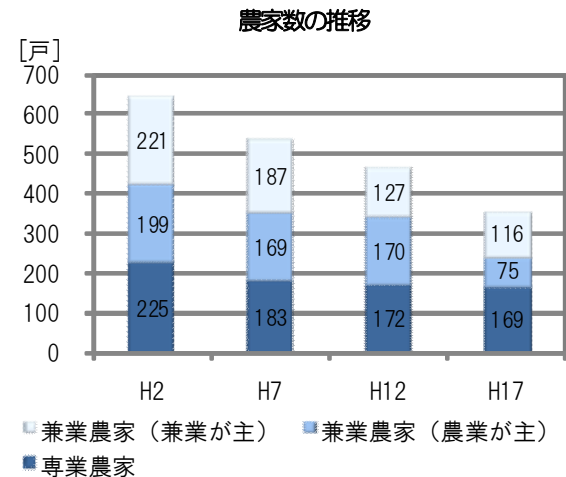
品目別にみると野菜を中心に、果実・乳用牛の占める割合も比較的高くなっています。

平成8（1996）年5月にトマトが「指定産地」の指定を受け、平成12（2000）年6月にはマンゴーとパパイアが県内で初めて「拠点産地」の認定を受けました。本市の特産品であるマンゴーについては、豊見城市『マンゴーの里』宣言を行うとともに、平成21（2009）年には「沖縄県農林漁業賞」を受賞しています。

これらの魅力ある農作物などを活かして特色ある農業振興を図っていくことが求められます。



資料：沖縄農林水産統計年報



資料：農業センサス

#### 【用語解説】

※1 農業振興地域：農業振興地域の整備に関する法律に基づき自然的・経済的・社会的諸条件を考慮して総合的に農業の振興を図ることが必要であると認められる地域

※2 農用地区域：農業振興地域の中で、おおむね10年先を見越して農用地等として保全していくべき土地

※3 農地転用：農地を農地以外の目的に転用すること、転用する場合は許可が必要

※4 耕作放棄地：農作物が1年以上作付けされず、数年の内に作付けする予定がない農地

### ○農村交流ニーズの高まり

近年、市民農園や農業体験など、都市と農村の交流に対するニーズが高まっています。一方、農村地域においては少子高齢化の進行や地域コミュニティの衰退などが課題となっています。

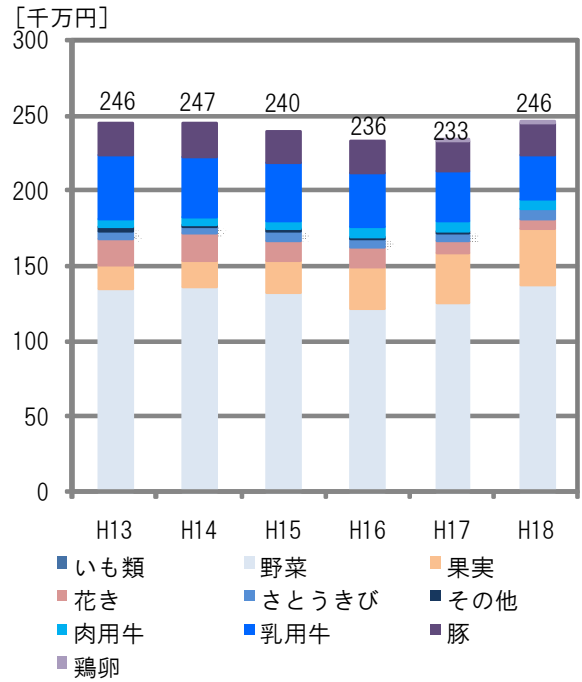
これらの状況を踏まえ、農村における交流促進や、交流による地域コミュニティの活性化が求められています。

### ○農村環境の維持・向上

本市の農村地域では昔ながらの農村集落が形成され・継承されてきました。

今後も、地域の生活環境の向上を図るため、集落道や農村公園、農業集落排水施設整備などの生活環境整備に継続して取り組んでいくことが求められます。

農業生産額の推移



資料：沖縄農林水産統計年報

マンゴー (拠点産地)



マンゴーコンテスト



マンゴーフェア



トマト (指定産地)



### (1) 優良農地の保全と農業経営の安定化支援

多くの優良農地は「農用地区域」として指定されており、豊見城農業振興地域整備計画に基づき保全と農業振興に努めていくとともに、必要に応じて見直しを図ります。ただし、「農地転用」の必要性が高く法令の定める要件を満たす場合や、計画的な都市的土地利用への転換の際には、関係機関との調整などの上、転用を検討します。

「農用地区域」などでは環境保全の視点も踏まえつつ、土地改良や農道・農業用排水路整備といった農業生産基盤の整備を図るとともに、農地の集約化などによる「耕作放棄地」の有効活用や農地の流動化を促進し、優良農地の保全と農業経営の安定化を図ります。

また、国で検討される「所得保障制度」の動向も踏まえつつ、JAおきなわなどの関係機関と連携して、経営の安定化に向けた支援に努めるとともに、担い手となる農業後継者や女性・高齢農業者、各種生産組合や農業法人など、農業に携わる人材の育成・確保や組織化を支援します。

市場の力を借りた農業振興を図るために、株式会社の参入を含めた農業経営主体の多様化に向けた取組に努めます。

### (2) 特産品を活かした農業振興

マンゴーやパパイヤなどの熱帯果樹、トマトを始めとする近郊野菜などについて、生産と流通の拡大を支援し、地域ブランド化を推進することでとみぐすくブランドとしてさらに市内外に定着するように積極的にPRします。

栽培技術のマニュアル整備、共同での選果や出荷、生産地から市場までの一貫した低温輸送による品質保持など、農家とJAおきなわなどの連携による各種の取組を強化します。

「トレーサビリティ<sup>\*1</sup>」の確立や減農薬栽培を行う「エコファーマー<sup>\*2</sup>」の認定制度の活用などにより、安心・安全のとみぐすくブランドのイメージ定着を図るとともに、外国産や他産地と差別化を図ります。

道の駅豊崎に隣接するJAおきなわの物販施設などでの産地直送販売を支援します。市外への移出や輸出とともに、「地産地消<sup>\*3</sup>」を重視し、「農商工連携<sup>\*4</sup>」や学校給食による「食育<sup>\*5</sup>」などに活用します。

### (3) 農の多面的活用

「農」を通じた市内外の都市住民との交流を促進します。市民農園や農業体験などの導入も検討します。本市においては、市外からの新たな住民が増加するなか、農村住民との相互交流の機会の提供などにより、農業に対する理解を深めるとともに農村の活性化を図ります。

### (4) 魅力ある農村環境の形成

本市の歴史の中で培われた豊かな農村集落の景観は、本市の大きな魅力の一つです。古くからの地域コミュニティの維持・活性化を図りその景観を維持するとともに、集落道や農業集落排水施設など必要な生活基盤の整備や施設整備などに努め、快適な環境づくりを進めます。

また、農業集落排水施設については、効果的な運用を図るため、接続率の向上に努めます。

#### 【用語解説】

※1 トレーサビリティ：産地の特定を全工程で可能とすること

※2 エコファーマー：「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、「土づくり」と「化学肥料・農薬の使用の低減」を一体的に行う計画を策定し認定を受けた農業者

※3 地産地消：地域で採れた食物を地域で消費すること

※4 農商工連携：地域の特色ある農林水産物、美しい景観など、長い歴史の中で培ってきた貴重な資源を有効に活用するため、農林漁業者と商工業者がお互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大などに取り組むこと

※5 食育：様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること

ビニールハウス



饒波のぼ場



施策の体系

農業の振興

優良農地の保全  
と農業経営の  
安定化支援

優良農地の保全と農業振興

「耕作放棄地」の活用支援

農業経営の安定化支援

担い手や生産組織の育成と多様な農業経営の導入検討

特産品を活かした  
農業振興

とみぐすくブランドの育成・PR

生産・集出荷・流通技術の向上

産地直送・販売体制の充実

「地産地消」「食育」の推進

農の多面的活用

都市と農村の交流促進

魅力ある農村  
環境の形成

地域コミュニティの維持・活性化

農村集落の景観づくり

生活基盤や施設の充実

目標指標	実績値	2015年目標値	2020年目標値
耕作放棄地の解消	24.9ha (H21年度)	20.0ha	17.4ha

## 水産業の振興

「与根漁港」や「瀬長船溜場」を中心に水産業に関わる生産基盤の整備・充実を図るとともに、水産業従業者や組織・団体の育成を支援します。

また、漁獲量・時期の調整や需要の把握、栽培漁業・養殖漁業・観光漁業の展開などにより、将来にわたって「持続可能な漁業」を推進するとともに、直販体制やPRの強化、とみぐすくブランド化などを推進し、水産業経営の向上・安定化を支援します。

## ○水産業基盤の充実と担い手確保

本市の年間漁獲量は、平成20（2008）年では、99.7tとなっています。漁獲高・生産額ともにまぐろ類やソデイカがその多くを占めています。

「与根漁港」は、これまで漁港整備計画により逐次関連施設の拡充が進められ、おおむね整備を完了しています。また、漁業生産の場である漁場整備については、沖合におけるパヤオ（浮漁礁）設置などを継続的に実施してきました。

今後は、都市化や土地開発に伴う河川や海域等の水質汚濁やサメ被害への対応など漁業環境の改善が課題となっています。

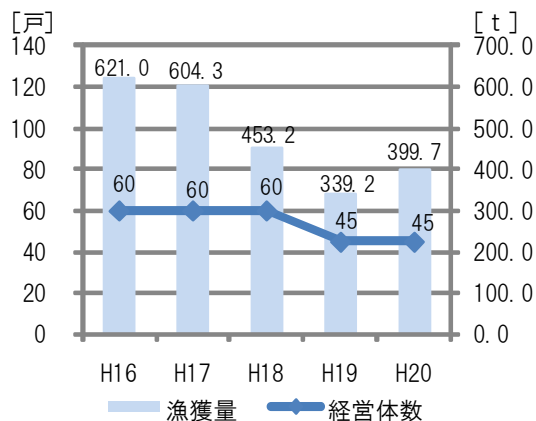
また、系満漁業協同組合与根支部及び瀬長支部に所属する経営体数は、平成20（2008）年で45戸となっており、水産業従業者の高齢化や後継者不足が課題となっています。

## ○水産資源の保全と有効活用

「与根漁港」は、本市の水産業の拠点であり、近年は遊漁船業も盛んになっています。

将来にわたって安定的な水産業を振興していくためにも、栽培漁業や養殖漁業などにより適切な水産資源の保全を図るとともに、遊漁船と連携した観光漁業の振興や直販体制の充実や特産品の開発なども課題となっています。

漁業経営体数・漁獲量の推移



資料：漁港港勢調査

パヤオ直売店



与根漁港



### (1) 水産業環境の充実

「与根漁港」や「瀬長船溜場」の有効活用に努め、漁業振興の基盤づくりに努めるとともに、オニヒトデやサメ駆除、水質維持改善、海浜清掃等を実施し、漁場環境の改善に取り組みます。

また、水産業従業者や漁業関連の組織・団体の育成と活性化を支援します。

### (2) 多面的な水産資源活用

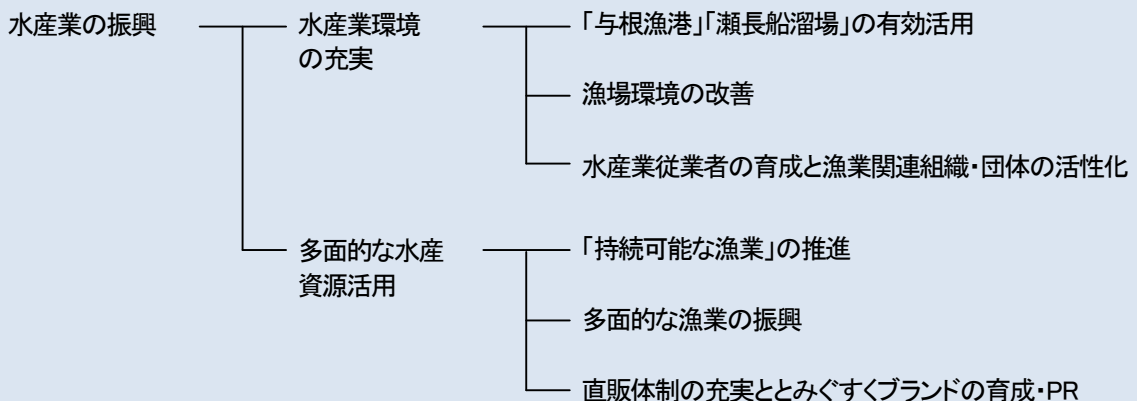
海域利用や水産資源保全のための方策を検討し、禁漁期間・区域、漁業権や観光利用との区分などのルール遵守した「持続可能な漁業」を推進します。本市の主要水揚げ品である「まぐろ」「ソデイカ」をはじめとする需給状況を注視し、必要に応じて対策を協議します。

与根地区や瀬長地区、糸満漁業協同組合、JA とみぐすくなどの関係機関と連携して、栽培漁業・養殖漁業・観光漁業など、多面的な水産業の振興を促進します。また、道の駅豊崎に隣接する JA おきなわの物販施設と連携して水産物の直販に取り組むとともに、とみぐすくブランド化に向けて水産加工品の開発や PR に努めます。

サメの駆除



#### 施策の体系



目標指標	実績値	2015年目標値	2020年目標値
水産業従業者数（経営体数）	45（H20年度）	47	50

経済のグローバル化※1とともに、全国的な商業経営の低迷がみられるなか、豊崎タウンとして新たな商業拠点が形成されるなど、本市の商業規模は伸びてきています。既成市街地や豊崎タウン、幹線道路沿いなど、地域特性に応じた計画的でバランスのとれた商業立地を誘導していきます。

「豊見城市商工会」を中心として各店舗や商店街などの活性化を支援するとともに、事業者自らの経営向上を支援します。さらに、農商工連携等による新たな商品の開発や米軍基地や東アジアを中心とする海外をターゲットとした新たな販路の開拓などに取り組みます。

### ○新たな商業地形成の動き

本市には、幹線道路沿いを中心に小規模な店舗や飲食店が分布するほか、沿道型の商業施設やコンビニエンスストアなどの立地がみられます。また、近年では、豊崎タウンの「アウトレットモールあしびなー」、幹線道路沿いのショッピングセンターやスーパーマーケットなど大規模商業施設の立地が進行しています。

本市の人口増加や豊崎タウンの商業地形成などにより、商業の事業所数・従業者数・年間販売額ともに伸びてきています。

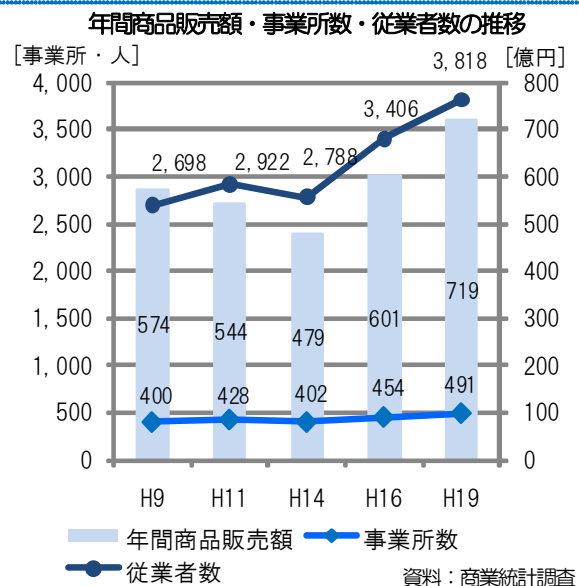
豊崎タウンとともに、既成市街地や幹線道路沿いにおける計画的でバランスのとれた商業施設の立地を図ることが求められます。

### ○各商業施設における活性化

本市では「豊見城市商工会」を中心に、商工業者の経営支援や地域の活性化を図るため、様々な活動を実施しています。

しかし、既成市街地などにある既存の商業施設は小規模であり、近年の経済の低迷を受けて厳しい経営状況にあります。そのため「中心市街地」の形成によるにぎわいのまちづくりや大規模商業施設との共存共栄による各店舗や商業の活性化を図る必要があります。

また、各事業者の新たな事業展開に対する支援の充実とともに、既存の販路に加え、新たなマーケットの構築、環境づくりが求められます。



#### アウトレットモールあしびなー



#### TOMITON



#### 【用語解説】

※1グローバル化：社会的あるいは経済的な連関が、国家や地域などの境界を越えて、地球規模に拡大すること



### (1) 計画的な商業地配置

豊崎タウンにおいては商業施設の立地が進行しており、にぎわいと魅力の向上と、新市街地としての新しい商業文化の創造に努めます。

また、「中心市街地」に不足する商業機能を強化するため、既成市街地での新たな商業立地も検討します。住宅地や集落地の中心地、幹線道路沿いなどに、計画的に商業施設を立地するための規制・誘導を図り、市全体にバランスのとれた商業地配置の実現を目指します。

### (2) 特色ある商店街の育成支援

地域単位で互いに結びつきを強め、各々が個性をもった商店街として発展していけるように、「豊見城市商工会」などの関係機関と連携し、商店街（「通り会」）などの育成や取組を支援していきます。

また、「中心市街地」の形成とあわせた、新たなにぎわい拠点の形成を検討します。

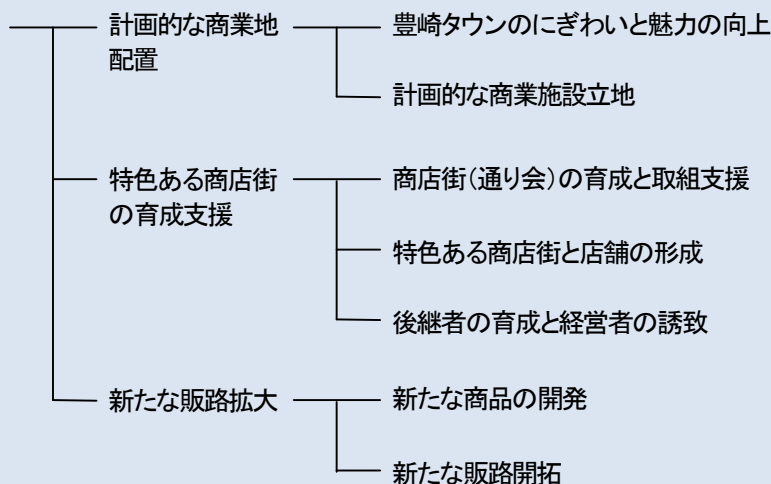
さらに、特産品の販売店や工房といったユニークな店舗の展開や誘致など観光産業との連携も視野に入れ、伝統行事・祭り・各種イベントの開催やインターネットを活用した情報発信などの充実を促進し特色ある商店街の形成に努めます。また、商業の担い手として、後継者育成のほか、意欲のある経営者の誘致等にも取り組みます。

### (3) 新たな販路拡大

商業の発展のためには、「農商工連携<sup>※2</sup>」等による新たな商品の開発を進めていくと同時に、これまでの地域に限られた販路だけではなく、新たな販路の拡大が求められることから、今後、民間企業と連携を図りながら、米軍基地や東アジアを中心とする海外など、外国人をターゲットとした新たな販路の開拓や事業サポートに向けて取り組みます。

#### 施策の体系

商業の振興



目標指標	実績値	2015年目標値	2020年目標値
年間商品販売額	719億円 (H19年)	790億円	860億円

【用語解説】

※2農商工連携：地域の特色ある農林水産物、美しい景観など、長い歴史の中で培ってきた貴重な資源を有効に活用するため、農林漁業者と商工業者がお互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大などに取り組むこと

本市の製造業は、比較的規模が小さく、市内に分散立地している傾向にあります。相談・融資・経営者育成支援や、「農商工連携※1」による加工業の振興、観光業との連携促進、工場の集約化など、経営環境の改善と安定化に向けた支援に努めていきます。

また、豊崎地区では工業施設が立地・集積しつつあり、地域特性を活かした生産性の高い工業地の形成を図っていきます。

今後、「企業立地促進法」などの制度を活用して、臨空・臨港型産業の新たな物流関連産業の集積・拠点形成に努めます。

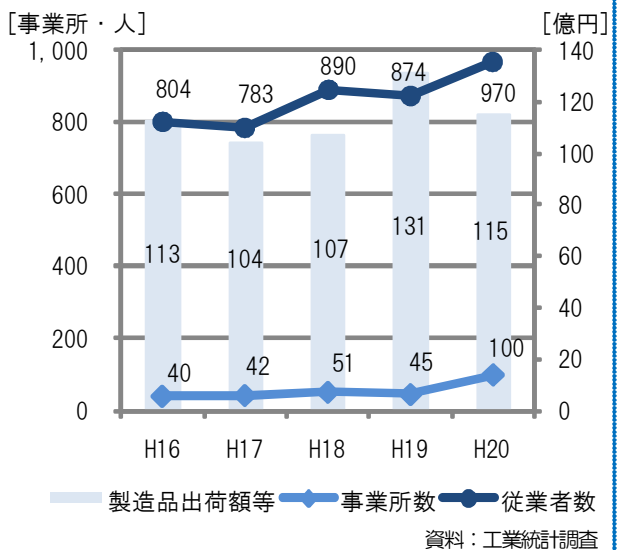
### ○既存の製造業の状況

本市の製造業は、事業所数が50前後、従業員数は900人弱で推移しており、製造品出荷額等は、平成19(2007)年度に約131億円に達しましたが、近年の経済の低迷により、経営環境に影響を受けています。

本市で古くから営まれている製造業としては、酒造所や製糖、食品加工などがあり、近年では観光と連携した取組も行われています。

本市の既存の製造業は、比較的規模の小さいものが多く、市内に分散立地している傾向がみられますが、各工場経営の改善と安定化を図ることが求められます。

製造品出荷額等・事業所数・従業員数の推移



### ○豊崎開発による新たな工業地形成

豊崎地区においては「都市開発関連用地(製造・物流用地)」が確保され、製造・物流などの施設の立地が進行しており、豊崎地区を中心とした生産性の高い工業地の形成が期待されます。

### ○物流関連企業の誘致・集積

物流産業については、県の新・リーディング産業に位置付けられており、民間航空会社によるアジアを対象とした物流のハブ化事業が本格的に稼働しています。また、豊崎地区や国道331号周辺への物流業者の展開が進んでいることから、臨空や臨港立地優位性という本市の強みを生かした物流産業の集積への取組が求められています。

忠孝蔵(忠孝酒造)



#### 【用語解説】

※1 農商工連携：地域の特色ある農林水産物、美しい景観など、長い歴史の中で培ってきた貴重な資源を有効に活用するため、農林漁業者と商工業者がお互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大などに取り組むこと

### (1) 工場経営の安定化

内陸部に分散立地する既存の工場については、経営環境の改善のため、豊見城市商工会などと連携して相談体制の充実や施設設備の近代化のための融資、後継者や経営者の育成などの支援を実施します。

また、「農商工連携」による本市の特産品の生産農家や販売者と連携した加工業の振興、本市独自の製造業の活用や体験型観光などの新たな取組による観光業との連携を促進し、工場経営の安定化を図ります。

### (2) 豊崎地区の工業地形成

豊崎地区では、製造・物流などの工業施設の立地が進行し、新たな工業地が形成されつつあります。住宅地や商業施設も隣接しており、住宅地などに配慮した施設整備や「地区計画<sup>※2</sup>」の遵守などを引き続き要請・指導するとともに、企業群の組織化など各種の経営支援を行うことで、生産性の高い工業地の形成に努めます。

### (3) 物流関連企業の誘致・集積

国や県「沖縄新・リーディング産業」育成に係る施策や企業立地促進法による企業立地促進制度などを活用して、臨空・臨港型産業の新たな物流関連産業の集積・拠点づくりに努めます。

瀬長島物産センター



泡盛（忠孝酒造）



#### 施策の体系

製造・物流業の振興

工場経営の安定化

相談体制や融資の充実と経営者育成

新たな工業地形成と集約化の検討

製造業と観光業の連携

豊崎地区の工業地形成

生産性の高い工業地の形成と企業立地

新たな事業者・組織の経営支援

物流関連企業の誘致・集積

物流関連産業の拠点づくり

目標指標	実績値	2015年目標値	2020年目標値
製造品出荷額	115億円（H20年度）	140億円	150億円
豊崎地区への工場立地数	9件	11件	13件

【用語解説】

※2地区計画：地区単位の開発や建築のルール

本市の自然環境や歴史・文化資源などの既存の観光資源の保全・活用とともに、新たな観光資源の育成・創出や、体験型プログラムや「健康・ウェルネス」、イベントなどの多彩な観光メニューの提供により観光振興を図ります。また、豊崎地区をはじめとする西海岸一帯においては、「観光振興地域」として観光拠点の形成と観光機能の充実を推進します。

情報発信や誘客のためのPR、県外や海外からの誘客に向けた取組などを推進するとともに、観光振興を担う人材や組織を育成し、市民・事業者・行政が連携した観光振興の推進体制の確立を図ります。

### ○観光資源の活用充実

本市には、瀬長島や漫湖周辺などの豊かな自然、更に漫湖水鳥・湿地センターや空の駅瀬長島物産センターなど自然環境を活かした施設や商業施設など、多彩な観光資源を有しています。こうした豊富な観光資源を活用し、観光振興と誘客を図ることが求められます。

### ○豊崎地区を中心とした観光拠点の形成

豊崎地区では、アウトレットモールや「道の駅豊崎」などの商業施設をはじめ、「豊崎美らSUNビーチ」などの海浜公園の整備が進むとともに、1日に約2,000台を発車・返車することができる県内でも最大の「レンタカーステーション」が立地しています。

路線バスの延伸や民間事業者による「無料シャトルバス」の運行、将来は那覇空港まで接続される那覇空港自動車道（豊見城東道路）豊見城・名嘉地インターチェンジの開通など、観光振興をめぐる状況は明るく、豊崎地区を含む「観光振興地域」に指定された西海岸一帯では、さらなる発展に向けた観光拠点の形成が求められます。

### ○新たな観光プログラムの展開

本市では、民間による工房見学や農業体験、漁業体験など、様々な観光体験プログラムがこれまで実施されてきました。また、本市では、地域の伝統的な祭りや伝統芸能、さらに各種イベントも開催されています。

近年の観光においては、「エコツーリズム」や「健康・ウェルネス」のニーズが高まっていますが、自然環境に囲まれた温暖な気候と、熱帯果樹や野菜など農産物が栽培され医療施設の集積もみられる本市においては、これらのニーズに対応しやすい環境であるといえます。

道の駅豊崎



豊崎美らSUNビーチ



本市の地域特性を活かした、新たな観光プログラムの展開を検討し、他地域と差別化を図った観光振興を推進していくことが求められます。

## ○情報発信や観光推進体制の強化

平成 20 (2008) 年 12 月には、「道の駅豊崎」が開業し、併設された「情報ステーション」では、本市を含む沖縄本島に関わる観光情報をはじめ、交通情報・気象・飛行機のフライトなどに関わる情報を提供しており、市役所の窓口と並んで、観光案内の施設として機能しています。

今後も、市民・事業者・行政が連携し、観光情報の発信や PR を強化し、観光を推進する組織や人材の育成など、観光振興体制の充実を図っていく必要があります。

## 観光マップ



現状と課題

地域特性を活かした産業創造のきっかけ

### (1) 観光拠点の充実

瀬長島を中心とする西海岸や漫湖周辺の自然資源、また、旧海軍司令部壕などの歴史・文化資源について適切に保全し、観光拠点として活用していきます。各々の観光資源は適切に維持管理し、必要に応じ観光拠点機能を充実していきます。

観光資源の充実や観光需要の動向を踏まえて、宿泊施設の誘致も検討します。

施設や拠点間を有機的なネットワークとして結び、相乗効果を発揮させるため、幹線道路の整備や新設、「市内一周バス」などの路線バスの活用、歩行者や自転車ルート of 快適性の向上、外国人観光客を含むだれにとってもわかりやすい案内サインの充実などを総合的に実施します。

### (2) エアウェイ・リゾートの形成

豊崎地区などの西海岸一帯については、那覇空港に隣接するアクセス性の良さやレンタカーステーション、情報ステーションが整備されているメリットを活かし、エアウェイ・リゾートの形成を推進します。

豊崎地区は、大規模商業施設や道の駅豊崎、豊崎美らSUNビーチなどが立地しており、新しい観光拠点として最大限に活用します。空の駅瀬長島物産センターが立地し温泉計画が進行している瀬長島、水産業の拠点である与根漁港や瀬長船溜場、海域におけるマリンスポーツや釣りなども含め、観光機能の育成・整備を図ります。また、ホテルやレジャー施設を含めた施設誘致などの様々な可能性を検討します。

### (3) 多彩な観光プログラムの提供

観光施設の整備にとどまらず、「工房見学」「農業体験」「漁業体験」など、市内に既に存在する産業を活用して、多彩な観光体験プログラムの提供に努めるとともに、そのためのPRや「観光協会」等の観光関連団体の組織化と育成を支援します。また、県外や国外からの誘客、本市の地域特性を活かした「とみぐすくエコツーリズム」や「健康・ウェルネス」の育成を図ります。

集客に効果をもつ、音楽・スポーツ・祭り・伝統芸能などの各種イベントの開催を充実・支援します。「豊崎海浜公園」をはじめとする大規模施設を中心に、市内各所での開催の可能性も検討します。

### (4) 観光振興体制の充実

市民・事業者・行政など各々主体が、ホスピタリティ（来客をもてなす心）を持って本市の観光PRを推進するとともに、市のホームページや観光関連の資料・マップなどについて更なる充実に努めます。

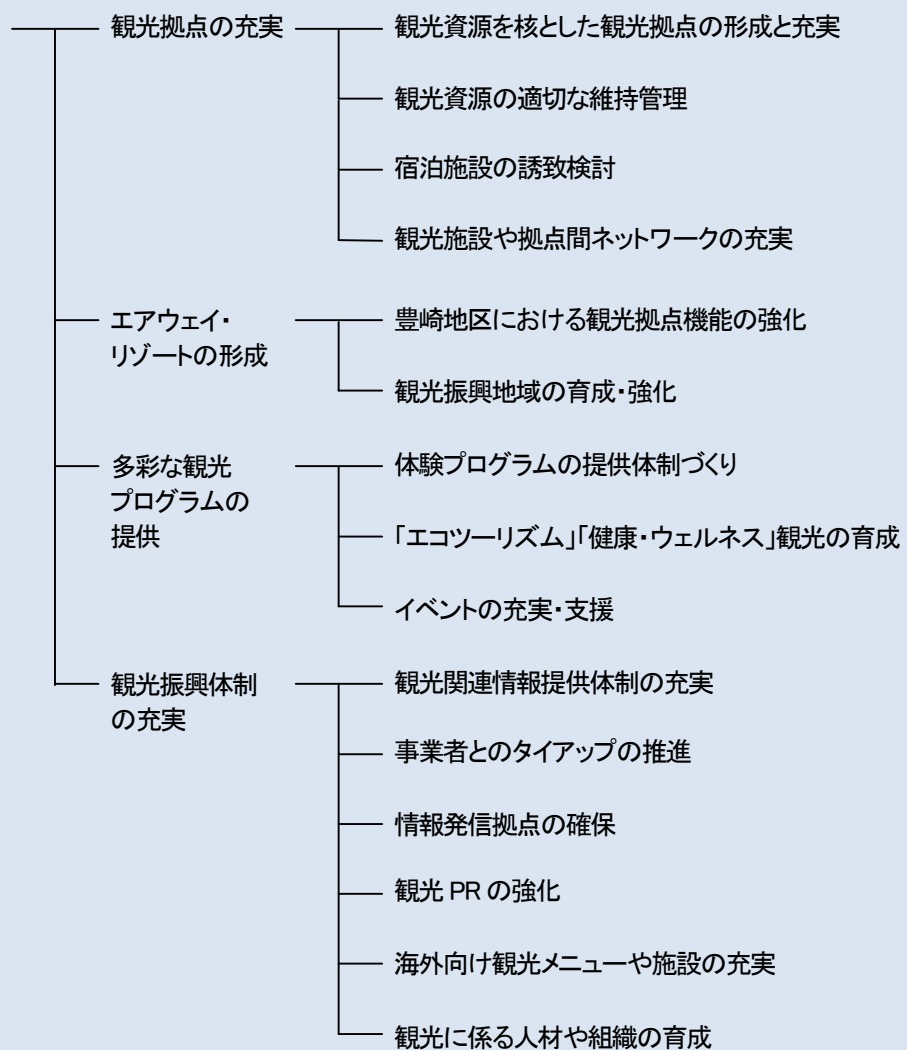
情報発信に当たっての民間旅行業者や市内の観光関連事業者などとのタイアップ（事業協力等）を推進します。また、市庁舎での案内に加えて、「道の駅豊崎」内にある「情報ステーション」など情報発信拠点の確保・充実に努めます。

沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）や他自治体などとの連携を強化し、観光情報の提供を充実します。県外の観光関連機関との連携の強化も図ります。また、経済のグローバル化の進展に伴い、アジアを中心とした海外からの観光客の誘客とPRの強化、外国人をターゲットとした観光メニューの開発や環境整備に努めます。

観光ボランティアの育成支援や、観光に係る人材や組織（観光関連NPOや観光協会など）の育成などを検討し、地域の人材を活かした観光振興体制づくりを図ります。

施策の体系

観光・リゾート  
産業の振興



地域特性を活かした  
産業創造のまちづくり

目標指標	実績値	2015年目標値	2020年目標値
観光協会の設立	検討中	設立	—

## 新産業の育成・創出

社会状況やニーズの変化に対応した新たな産業を育成・創出し、本市における産業振興と雇用促進を図ります。経済のグローバル化や地球環境問題、地域福祉の充実などの様々な問題へ対応する、情報通信産業や環境・エネルギー産業、コミュニティ・ソーシャルビジネスなどは、本市において注目される成長産業の一つと考えられ、これらの育成支援や企業誘致を図ります。

また、市の特産品や資源を活用した「とみぐすくブランド」の構築など、付加価値の高い産業の育成を図ります。

### ○新技術による新たな産業

本市では、IT（情報通信技術）の振興のため、平成18（2006）年度に「IT新事業創出体制強化事業」を実施しました。市街地の大型空き店舗の整備を行い、平成19（2007）年4月に情報通信関連企業が2社入居しています。無停電電源装置・監視カメラ・入退室管理システムなどを導入し、入居企業から高い評価を受けています。

しかし、施設が老朽化してきており、今後はその対応と、さらなる企業誘致に向け、新規の施設整備の検討も必要となっています。

地球環境問題の顕在化とともに、政府の支援もあって環境・エネルギー関連産業が成長しつつあります。本市でも、「豊見城市地域新エネルギービジョン」を策定しており、環境・エネルギー関連企業の育成・誘致を推進していくことが求められます。

また、地域コミュニティの希薄化が問題となっているなか、新たに地域や社会の問題をビジネス手法により解決する考え方も生まれています。

ITセンター



特産品



### ○特産品などの活用

本市の主要特産品として、ウーヅ染め、琉球漆器などがあります。

これらを市内外にPRするとともに、「農商工連携※1」を図り販売促進や新商品開発を行うことで、付加価値のある新産業を創設・育成していくことが求められます。

### ○経済のグローバル化

経済の「グローバル化」が進行し、国際競争の激化や中国やインドをはじめとするアジア諸国の経済的な台頭が著しくみられます。

本市においても、那覇空港からのアクセス性を活かし、物流・情報通信・観光産業など、経済の「グローバル化」に対応した産業の誘致と育成を推進していくことが求められます。

#### 【用語解説】

※1 農商工連携：地域の特色ある農林水産物、美しい景観など、長い歴史の中で培ってきた貴重な資源を有効に活用するため、農林漁業者と商工業者がお互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大などに取り組むこと



### (1) 新たな産業の育成

情報通信産業については、IT（情報通信技術）の振興のため、さらなる技術革新の一翼を担う企業の誘致・育成に努めます。

また、民間との協働による地球環境問題への貢献に向け、豊見城市地域新エネルギービジョンなどを踏まえ、豊崎地区のレンタカーステーションや自動車関連企業の集積を活かした「エコカー<sup>※2</sup>」の普及、「天然ガスコージェネレーション<sup>※3</sup>」「風力発電」「太陽光発電」「太陽熱利用」「バイオマスエネルギー<sup>※4</sup>」など、環境・エネルギー関連産業の誘致・育成を推進します。

地域によるまちづくりを進めるため、「コミュニティビジネス<sup>※5</sup>」や「ソーシャルビジネス<sup>※6</sup>」などの支援を検討します。

### (2) とみぐすくブランドの構築

市内の農業・水産業・商業・製造業といった個別の産業振興に加え、相互が連携する「農商工連携」により、新産業の創出・育成を支援します。

「拠点産地」の指定を受けた高品質の「マンゴー」をはじめとする本市の特産品が、更に全国的に知名度を上げるように、豊見城市商工会と連携しとみぐすくブランド化の取組を推進します。

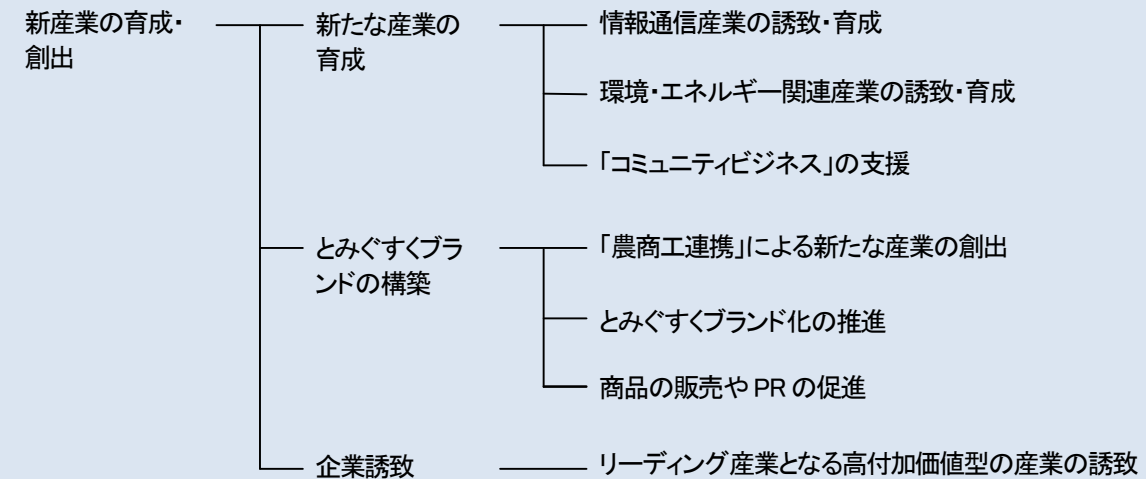
また、特産品に限らず、景観や動植物、人材など、幅広くブランド化可能な資源を調査・発掘し、新産業の育成に結びつけていきます。

さらに「道の駅豊崎」などの観光施設や各種関連団体と連携し、商品の販売やPR、人材の紹介などに積極的に取り組みます。

### (3) 企業誘致

那覇空港からのアクセス性の高さなどの立地特性を活かした物流関連企業の誘致に努めるとともに、特に立地条件の良い西海岸地域などを中心に情報通信や観光産業、ウェルネス産業など本県のリーディング産業となる高付加価値型の産業の誘致を推進します。

#### 施策の体系



地域特性を活かした産業創造の仕組みづくり

目標指標	実績値	2015年目標値	2020年目標値
情報通信関連企業の立地数	6件	8件	10件

【用語解説】

※2エコカー：電気自動車・ハイブリッドカーなど環境に優しい車

※3天然ガスコージェネレーション：天然ガスの燃焼による熱を動力や電力に変換し、その排熱を熱源として利用するシステム

※4バイオマスエネルギー：生物を利用したエネルギー

※5コミュニティビジネス：地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決する事業

※6ソーシャルビジネス：社会的課題への取組を、継続的な事業活動として進めていくこと

雇用の安定・促進を図るため、「那覇公共職業安定所（ハローワーク）」などと連携した就労支援を行うとともに、雇用に積極的な企業の表彰など、市内企業を支援する取組も検討します。

「豊見城市地域雇用創造推進協議会」や教育関連機関、民間事業者などと連携するとともに、観光振興や新たな産業の創出などの産業振興を総合的に取組むことにより、雇用機会の拡大や新規雇用の創出、人材育成などを推進していきます。

### ○雇用問題の深刻化

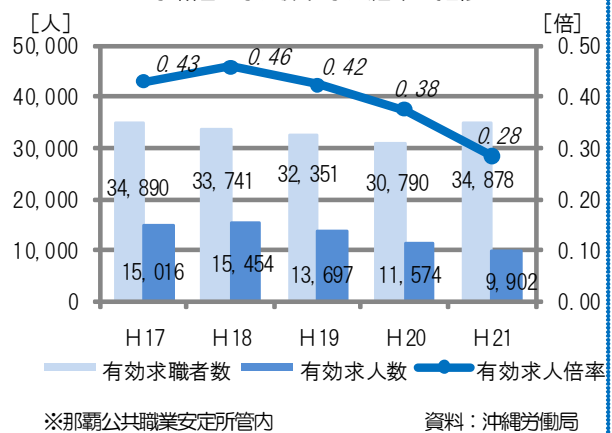
本市を含む「那覇公共職業安定所（ハローワーク）」管内での有効求人倍率は0.28と、雇用をめぐる環境は極めて厳しい状況にあります。近年の経済環境の悪化により、求職者数の急増と求人数の減少が同時進行しており、雇用問題が深刻化してきています。

### ○雇用の創出と的確な人材育成

新規の雇用創出を図るため、市・豊見城市商工会・JAおきなわ豊見城支店・有識者からなる「豊見城市地域雇用創造推進協議会」が設置されています。「とみぐすく de はたらこう！」をキャッチフレーズに、本市の企業などへの就職を応援するため、就職支援セミナーや企業セミナーなどを実施し、雇用の促進に努めています。

また、就業前教育や働くことへの意識づくりを図るため、講演会や職場体験も実施していますが、産業振興施策と連携した企業誘致など雇用の創出を図るとともに、企業のニーズを踏まえた的確な人材育成の強化が求められます。

求職者・求人数、求人倍率の推移



IT系セミナー



観光系セミナー



## (1) 雇用の安定

「那覇公共職業安定所（ハローワーク）」などの関係機関との連携により、就業相談、職業訓練などの就労支援を充実します。また、本市において就職あっせんや求職者への教育の強化、コーディネーター設置などを進めるため「ふるさとハローワーク」の設置に取り組みます。

産業振興施策による企業の活性化を図るとともに、豊見城市商工会と連携した雇用に積極的な企業への表彰や企業セミナーなどを実施し、企業を支援します。

また、子育て家庭に対しては、働きながら子どもや家庭とのふれあいを大事にする機会を創出ができるよう、「ワーク・ライフ・バランス<sup>※1</sup>」を推進し、就労環境や条件の改善を図る普及啓発や就労支援対策の充実に努めます。

## (2) 雇用の創出

「豊見城市地域雇用創造推進協議会」などと連携して、本市の企業などへの就職を応援するため、就職支援セミナーや市内企業へのセミナーなどを実施し、雇用の促進に努めます。

雇用の拡大と新規創出に向けては、既存事業者の活性化を支援するとともに、県などの関係機関と連携した企業誘致に努めます。企業誘致に当たっては、内発的で持続的な発展のため、観光振興（とみぐすくブランドづくり）や新産業の創出などの他分野の施策との連携を図り安定的な雇用の継続と新規雇用の創出に努めます。

また、教育関連機関や民間事業者などと連携し、産業振興の流れや企業のニーズにマッチした人材育成を図ることで、雇用促進を支援します。

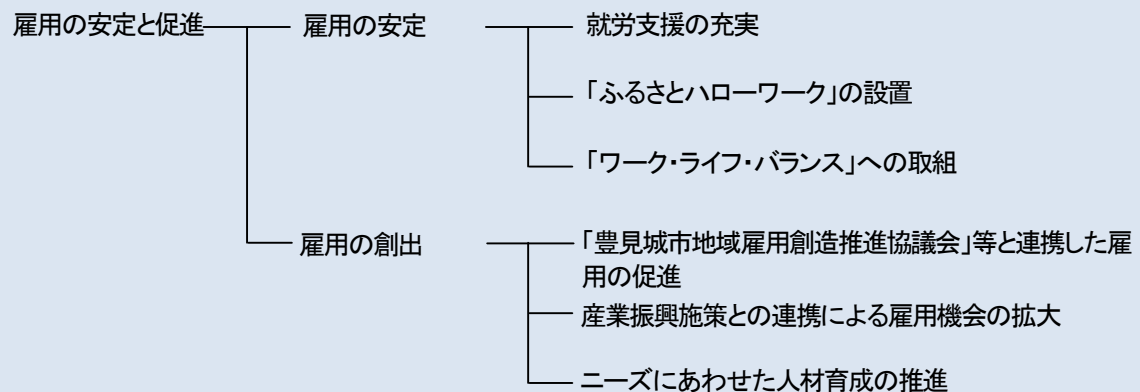
企業見学会



経営力アップセミナー



### 施策の体系



目標指標	実績値	2015年目標値	2020年目標値
市内の完全失業率	11.3% (H17年度国勢調査)	6.5%	4.0%

【用語解説】

※1ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活の適正な両立